

2017 年度

コノテラ通信はコノミヤテラスの日々の出来事や地域の情報をお知らせする通信紙です。その通信に見立て「協働する学生のチカラ版」として活動をご紹介します。

コノテラ通信

協働する
学生の
チカラ版

南花台地域を眺める。開発住宅団地周辺には緑豊かな環境が広がる。

南花台地区「丘の生活拠点」に関するまちづくり連携協定を締結しました！

■三者の連携協定

多世代が住み慣れた場所で安心して快適に住み続けられるまち(スマートエイジング・シティ)の形成を目指し、河内長野市、UR都市機構、関西大学が、幅広く連携・協力していくことで合意に達し、2018年2月20日に、大阪府立会いのもと、「南花台地区『丘の生活拠点』に関するまちづくり連携協定」を締結しました。本協定は、人口減少及び少子高齢化が進む郊外団地の課題解決に向けた連携協定であり、単なる団地再編・集約にとどまらず、安全・安心・快適で、愛着のある魅力的な「まちづくり」を目的としています。また、多世代の地域住民や地元企業・商店を巻き込んだ「公民学」の連携体制を構築していきます。



コノミヤテラスの赤の部屋で開催！

ふれあいテラススタート！



緑の部屋が子育てサロンに变身！

■月に四回の小さな子育てサロン
コノミヤテラス(緑の部屋)で、未就学児とその保護者の憩いの場「ふれあいテラス」がスタートしました。兄弟同伴の場合は、小学校2年生までOK！畳を敷いたスペースに絵本やおもちゃを用意しており、飲食もできます。ボランティアスタッフ、福祉委員、民生委員、主任児童委員、保育士等が交代でサポートします。少しずつですが「コノミ」で広がりを見せており、利用者親子も増えてきています。

買い物応援1周年円卓会議開催！



当日は30名以上の方が参加し、意見交換も弾みとても有意義な会となりました。

■1年間の振り返り
2018年1月21日「買い物応援1周年円卓会議」を開催しました！
2016年の12月から現在までで合計36件の利用があり、リピーターの方が多いことや、南花台では、三丁目にお住いの方の利用が特に多いこと。また、大矢船など、他地域からの問い合わせが多いことも報告されました。
寝屋川あいの会の三和代表からは、現在の取り組みの概要やその中の工夫や苦労話をしていただき、会場の皆さん大変感心しておられました。「利用される方の満足も重要だが、大切なのは応援側のやりたいという気持ちだ」と語っておられたのが印象的でした。

コノミヤテラスの29年度の活動

コノミヤの2階にあります！

「コノミヤテラス」は2015年10月3日に、誰もが気軽に立ち寄れる地域のコミュニティ拠点としてオープンしました！(当日コノミヤテラスに名前が決定！)住民・学生・行政・企業...いろいろな団体、人が協働で365日オープンの拠点を目指します！拠点はできたばかり、やりながらいろんなことを考えていきます！

...のはんの一部です。

29年度のコノミヤテラスの活動

| | |
|-----|---|
| 4月 | <input type="checkbox"/> 錦秀会看護専門学校お披露目会 <input type="checkbox"/> コノテラカフェスタート |
| 5月 | <input type="checkbox"/> ファミサポスタート <input type="checkbox"/> 買い物応援予約受付スタート |
| 6月 | <input type="checkbox"/> 出張コロコロテラススタート <input type="checkbox"/> ふれあいテラススタート |
| 7月 | <input type="checkbox"/> 大阪大谷大学学生協働スタート |
| 8月 | <input type="checkbox"/> 南花台夏祭り参加 <input type="checkbox"/> プレミアムフライデースタート |
| 9月 | <input type="checkbox"/> 住まいの相談会スタート(9・10・11月) <input type="checkbox"/> 未来予想図づくりスタート |
| 10月 | <input type="checkbox"/> 事業者の会看板整備 |
| 11月 | <input type="checkbox"/> 未来予想図づくりWS① <input type="checkbox"/> コノテラ通信地域住民による配布 |
| 12月 | <input type="checkbox"/> 情報交流会@看護専門学校 <input type="checkbox"/> 咲っく南花台中間報告会(市役所) |
| 1月 | <input type="checkbox"/> 買い物応援1周年振り返り円卓会議 <input type="checkbox"/> 未来予想図づくりWS② |
| 2月 | <input type="checkbox"/> 住み継がれる集住環境とは？ <input type="checkbox"/> 未来予想図づくりWS③ |
| 3月 | <input type="checkbox"/> 健康モニター振り返りの会 <input type="checkbox"/> ありがとうの会 |

咲っく南花台って？
HPでチェックできます！
咲っく南花台.com
▶ <http://nankadai.com/sac>



中庭はライトアップ！

改修前

改修後

情報交流会 @ 錦秀会看護専門学校
2017年12月20日、「咲っく南花台情報交流会」を開催しました！会場は関西大学の学生がデザイン、食事は南花台の飲食店事業者の会からと、咲っく南花台のつながりを生かした交流会となりました。今回はプロジェクト参加者のみの会でしたが、今後はいろんな方に来ていただけるようにしたいと思います。今回学びの場である看護専門学校が、交流の場、多世代分野をつなげる場として機能していたわけです。コノミヤテラスもそうですが、これからは多様な使い方、許容できる空間が必要なのではないでしょうか？それが地域の拠点となり、人をつないで、新たな活動を生んでいく...。未来の学校の可能性を感じる会となりました。



20人近い方が参加！

学生交えてみんなで議論！

南花台の未来予想図づくり
咲っく南花台の活動を続けてきて、約一年半。これまでの進捗も踏まえて、南花台の未来予想図を描いてみるプロジェクトです！出来上がった未来予想図は、しっかりと形として残り、今後の指針とします！今回はWS形式で人を集めて行うだけでなく、事業者の会や様々な会議体に声をかけ、できる限り広く意見を聞くことに重点を置き未来予想図づくりを進めました。3月にはまとめる予定ですが、それで完成というわけではなく、今後も地域の方と一緒に未来を描き続けるための1つの指針となるものとして活用していくことになっています。



#ノルディックウォークの会

#大阪大谷大学学生企画！

#南花台夏祭り

#大好評の健康講座

#初のクリスマス会

#毎年恒例の大掃除

#健康クラブの表彰式

#ありがとうの会

男山で協働するチカラ



平成 24 年度から継続して関わり続ける男山でのまちづくり。多くの卒業生や新しい学生、住民の皆さん、UR、八幡市の方々と関係性の環はより大きく広がり続け、まちを変えていく大きな原動力となっています。

協働による実践 「やってみよう会議」

「男山やってみよう会議は、「住みたい、住み続けたい男山地域」であるために、幅広い世代が集い、まちづくりの方向性や自分たちに何ができるかを話し合い、できることから「やってみる」実践型の会議です。

平成27年度3月から、毎月第3土曜日に定例会を行い、議論を重ねています。

「男山地域がより住みよくなるために自分ができること」を考え、想いを共感できるメンバーでチームを組み、協働することで多様性のある様々な活動が展開されてきました。メンバーは、20代〜80代と幅広い年齢の方が集まっています。また地域住民だけではなく、他地域で市民活動を行うNPOや専門性を持ち合わせた方といった多様な主体との協働も特徴です。今年からは開始から3年を迎え、以前の取り組みが新たな「やってみよう」という気持ちのきっかけとなり、男山の魅力的な人、場所など「ストック」を横断した活動が行われました。



協働する学生のチカラ③
男山やってみよう会議
H27.3~

365日オープンしている「気軽に集まれる場所」として開設した「だんだんテラス」開設から4年が経過し、男山の魅力として内外に知られ、様々な人が訪れています。

協働する学生のチカラ①
だんだんテラスの運営
H25.11~



自然と交流が生まれます。



様々な活動を後押しします。



時には地域の催しに参加します。



男山地域全域に毎月 10,000 部届けている「だんだん通信」。これを見れば今月何が
あるか、どのようなことが男山で考えられ、起ころうとしているか一目瞭然です。



協働する学生のチカラ②
だんだん通信の作成
H26.4~

「だんだん通信」の編集者たち

男山地域まちづくり連携協会の取り組み

2/4(日)オープニングイベント開催
毎週土曜日は工具・機材の利用講習会
暮らしの相談
住戸リノベーション見学ツアー

男山地域再生基本計画の認知度は59.5%という結果

まちづくりに参加するきっかけが欲しいという声も

男山の手作りコミュニティを広げたい！
毎月8日男山中央センター商店街で手作り市開催！

『やってみよう会議』チーム紹介！！

| | | | |
|---|---|--|--|
| <p>夢プロジェクトチーム</p> <p>八幡の歴史を題材にしたイベントを開催し、地域の魅力を発信していきます！</p> | <p>防災チーム</p> <p>日常の暮らしから楽しく『防災』について考えていける機会をつくります！</p> | <p>ヤハイ！まち歩きチーム</p> <p>地域を歩いて、地域の方とお話をして、地域のヤハイ（＝魅力）を再発見します！</p> | <p>だんテラス拡充・継承チーム</p> <p>だんだんテラスを地域で継承して、男山地域再生のシンボルになるように活動しています。</p> |
| <p>手作り市チーム</p> <p>男山の手作りコミュニティを広げたい！ 毎月8日男山中央センター商店街で手作り市開催！</p> | <p>緑道de遊び隊チーム</p> <p>男山団地の魅力的な緑道で遊びたい！ 毎月8日男山中央センター商店街で手作り市開催！</p> | <p>子ども食堂チーム</p> <p>大人も子どもも参加自由。みんなでお昼ご飯を食べて交流のきっかけをつくります！</p> | <p>フォークソングチーム</p> <p>だんだんテラスで練習や演奏会を行っています！ 生演奏に合わせてみんなで歌います！</p> |



協働する学生のチカラ④
だんだんラボ
H30.2~

| | | | | | | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|---|---|---------------------------------|--|---|
| 平成23年度(2011) | 平成24年度(2012) | 平成25年度(2013) | 平成26年度(2014) | 平成27年度(2015) | 平成28年度(2016) | 平成29年度(2017) | 平成30年度(2018) | |
| 海外等の事例調査 KSDP 団地再編プロジェクト | 居住実験 環境調査 男山団地 団地再編提案作成 | Petit DIY 改修実験 男山地域再生基本計画草案 | だんだん通信発行 「だんだんテラス」開設(95日オープン) | 「DIYラボ」期間限定オープン おひさまテラス開設 団地deコソダテ男山団地1 | 「住まいの相談会」開催 団地deコソダテ男山団地2 模様替え申請内の改修モデル提案 | 「DIYワークショップ」開催 団地deコソダテ男山団地3 | 「だんだんラボ」計画開始 「コロミタウン」の誕生 「DIYワークショップ」開催 団地deコソダテ男山団地4 | 「おもちゃの病院」開催 だんだんラボ塗装 工具利用講習会開催 手作りWSの開催 オープニングセレモニー |

『だんだんラボ』が生まれた経緯



模型による検討



2018年2/4 オープニングセレモニーの様子



『おもちゃの病院』の開催

だんだんテラスの拡張
『だんだんラボ』の開設
2018年2月4日、男山団地に新しく住む新規居住者だけでなく、団地に昔から住んでいる既存居住者が持続的で自分らしく幸せな暮らしをサポートするために、DIYやものづくりの特化した『だんだんラボ』が開設されました。
『だんだんラボ』では、工具や作業スペースの貸し出し、WSの開催、ギャラリー展示や情報収集、発信を行い、新たにものづくりを通して人と人のつながりを生んでいきます。
『だんだんラボ』開設の経緯は長く、『Petit DIY 改修実験』や『DIYラボ』の期間限定オープン、DIYサポートとしての『住まいの相談会』、制度を再編して生まれた『コロミタウン』の導入など、既存住民が自分らしく幸せな暮らしの実現を模索しながら実践し、積み重ねてきたことで生まれました。これから『だんだんテラス』と『だんだんラボ』が協働して団地の暮らしをサポートしていくことで、自分らしく幸せな団地の暮らしが生まれることを目指していきます。

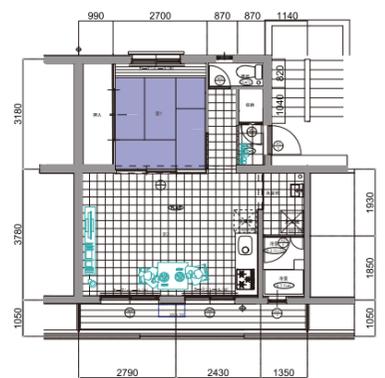
2014 2015 2016 2017



協働する学生のチカラ⑤
ダンチ de コソダテ
in 男山団地
H26.4~

これまでの4年間でA地区に17戸リノベーション住戸が実現しています。今年も2DKプランに取り組みました。

・A17-404 緩やかに繋がる住まい



最小限の手を加え、既存プランの利点を活かし、コストを抑えつつ、開放感のある住戸プランができないか考えた。既存の南北の部屋の中央に位置する壁を撤去し、L字型に引き戸を配置することで、引き戸の開閉により空間をその時の状況や気分によって使い分けられるようにした。

・A20-503 移ろいのある住まい



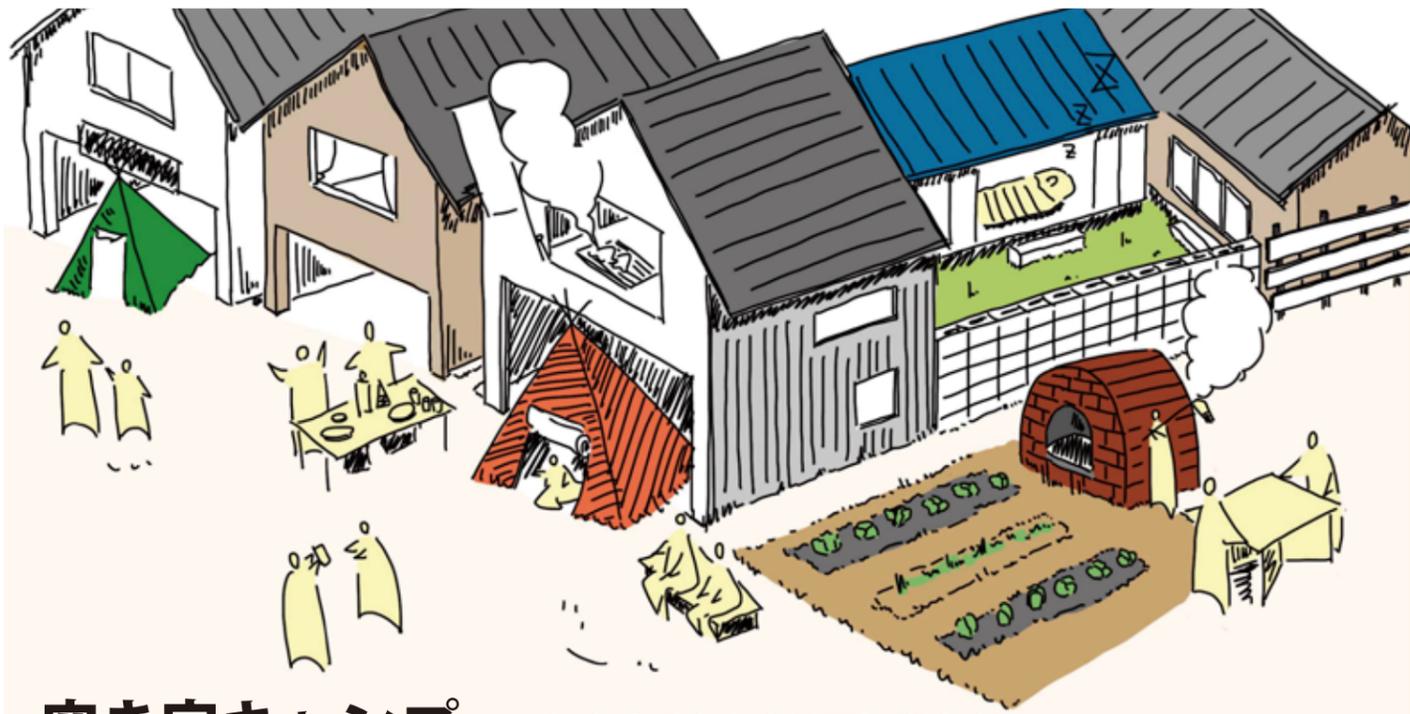
2DKで狭かった空間をワンルーム化し、小上がりや腰壁、押し入れ、窓際の眺望など、場所の特性を生かしながら、ゆるやかにモノや人の居場所がたくさん生まれるように考えた。2畳分の畳の小上がりは、今まで団地の部屋に無かった高低差によって空間を創っている。室内に於ける移動畳の検討も行った。

・A24-401 のびやかな風景と暮らす住まい



A地区の東端に位置していることから、南北方向へののびやかな風景を楽しむ住戸となるよう計画した。既存の3部屋を跨ぐように大カウンターテーブルを造り付け家具として設計し、テーブルを中心に様々なふまいが展開されるようにした。玄関部に框戸を新設し、気密性を高めている。

UR都市機構と協働
リノベーション住戸
男山団地A地区において関西大学団地再編プロジェクトとUR都市機構によるリノベーション住戸が今年も完成しました。
今年の住戸はワンルーム使用のものや、小上がりや大テーブルなど家具で空間を構成する住戸となっており、2DKという狭い間取りながら、開放的に外を感じながら住まうことが出来るプランとなっています。
また、今年度はこれまで設計したリノベーション住戸にお住まいの方々、設計者の方々、UR都市機構の担当の方々などにヒアリングを行い、これまでの取り組みを整理し振り返りました。住まい手が自身の住戸に手を加えながら、工夫して住まうことが明らかになった一方で、だんだんテラス等との連携面での課題が明らかになりました。
今後はだんだんラボとの連携により、ソフト・ハードが連携した「自分らしく工夫して暮らす」住まい方が実現していくのではないのでしょうか。



空き家キャンプ —超実践型空き家活用提案合宿— 2017/9・6~9 実施

平成 25 年度の住宅・土地家屋調査では、全国の空き家戸数は 820 万戸にも及ぶというデータが発表され、佐治も例外ではありません。様々な視点から問題が指摘されている空き家ですが、風を通したり掃除するだけで、建物は長持ちし、まちの空気も明るくなります。「佐治の環境リノベーションプログラム」では、空き家を地域の資源と捉え、「潜在的なチカラ・可能性」を発見的に学ぶ取り組みです。今回は「空き家キャンプ」というテーマのもと、泊まり込みを通じて得られた発見から新たな利活用の姿を考察しました。

1日目

まずは掃除！
空き家のコンディションを整えます。
夜は SAJIHAUS 出町慎さんからレクチャー

2日目

建築的な視点で空き家を観察します。
また、段ボール等を駆使して空間づくり実験を行います。

3日目

最終日は地元の方を招いて発表会と意見交換
住民の方ならではの視点からお話を伺いました！



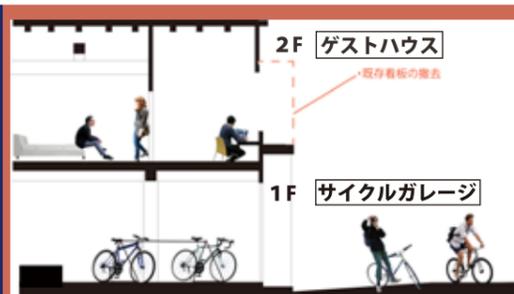
佐治スタジオ

よしみや(提案)



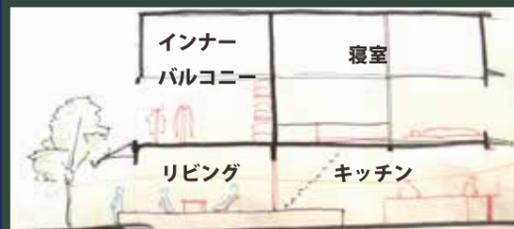
実施風景

現状調査からアイデア WS を行いました。
夜は空き家に寝泊まりし、七輪を駆使しながら中庭での調理も行いました。



提案0 Cyclist x ゲストハウス

かつて佐治は宿場町であったことを継承し「現代版馬継≒自転車乗り」が宿泊できる活用を考えました。二階は若い世代が安価で長期滞在できるゲストハウスとします。滞在を通じて佐治の暮らしを体験し、将来的には移住・定住を考えられるきっかけを担いながらも、まちの様々な間を繋ぐハブ拠点としての役割を担います。



提案2 まちコテージのある家

宿泊機能としての質よりも、自分達だけで宿泊できる空間が社会に求められていると考え、一棟貸しの家を提案。グループ向けに都会ではしにくい、BBQ・花火などを楽しめる場所を計画しました。

関西大学佐治スタジオ設立11年目の“年次報告会”

ブルーサミット

2018/02/25

◆協働して11年の歩み

関西大学佐治スタジオは設立11年経ちましたが、青垣で大きな報告会を行うことはあまりありませんでした。ですので、今年度は他学部が佐治で行ったゼミ活動の報告会と一緒に佐治スタジオの年次報告会を行いました。しかし、ただ佐治スタジオや学生の発表だけでは、もったいないということで、佐治スタジオが関わっている様々な団体が発表できる場を設けました。協働関係にある方々に声をかけて行くと、発表団体は全てで14団体となりました。どの団体も快く引き受けてくれて、佐治スタジオが築きあげてきたつながりの強さを感じることができました。関わり続けることで、様々な協働団体が増えていることを改めて実感しました。



ブルーサミットの様子



学生の発表

◆様々な地域団体と学生が混ざり合う場

今年は佐治スタジオの活動を修士論文で取り上げてくれた竹谷君・阪井君や丹波で活動したゼミ生の発表と佐治で活動する様々な団体の発表が行われました。発表時間は5分という短い時間でしたが、ただの報告だけではなく次年度に向けての意気込みを話してもらい、色々な方の目標などを聞くことができとても有意義な会になりました。全ての発表が終わった後は「キヌガワティータイム」と題して、発表者と参加者を交えて交流会を行いました。交流会は自由参加でしたが、たくさんの方が参加し、発表内容を踏まえて「学生」や「先生」、「地域の方々」が交流する風景が生まれました。互いの活動を知ること大事ですが、このように様々な分野で活躍する方々が交流する場を作れたことは本当に良かったことであり、今までの軌跡があったからこそできた場だと思っています。また、それぞれが新しい協働のカたちをつくって来年はさらにパワーアップした年次報告会を開催したいと思います。

交流会「キヌガワティータイム」の様子



◆報告会から実践につながる

報告会では次年度への目標が発表され、さじっこ倶楽部では「モクタンカンの活用」や佐治倶楽部では「親父のシェアハウス開催」に取り組むという発表がありました。そして、その二つは実際に取り組みが進んでいます。「モクタンカン」とは単管の代わりに木の丸材を用い、単管を組み立てる時のクランプを使って組み立てるというもので、実際に氷上町のイベント「軽トラ市」でそれを使って、展示ブースや出店の机を作りました。今後も様々なイベントで空間作りに使っていきます。また、「親父のシェアハウス」は空き家活用の手法の一つとして、自分たちでシェアハウスを1週間体験してみよう、という取り組みです。そして、4月には佐治にある空き家を使って、佐治倶楽部の会員さんで実際にお試しのシェアハウスを実施します。こういった発表の場で各団体が次のステップを考えるきっかけになっていけるような報告会を今後も佐治スタジオで企画し続けていきます。



さじっこ倶楽部の発表



佐治倶楽部の発表



モクタンカンを活用の様子



「親父のシェアハウス実験」
4月開催!?



ATACOM 8

テーマ：atacom ∞

アタコム リターンズ

制作合宿 8/17～25 川裾祭 7/29 軽トラ市 11/19、3/11
 愛宕祭 8/23～24 秋祭り 10/12 忘年会 12/23

8年目を迎えた活動

今年のテーマは『atacom∞(リターンズ)』。10周年が見えてきたATACOM。今年も、そしてこれからも∞に続いていくような活動を目指し、「8」にちなんで循環と刷新を含んだこのテーマを選びました。今年も新たな試みが展開された一方、仕組みや引継ぎ等の部分で来年以降の礎となるような再整理ができました。



大学での会議の様子



白熱の審査会



火の鳥

選ばれた作品



地域の方とのBBQ

「結ぶツクリモノ」と題した今年の審査会では、材料やモチーフだけでなく、町や人との関わり方で新たな提案が見られました。最後に選ばれたのは「うちわ一式の火の鳥」。3年前に一度使ったうちわを使って、ガレージを飛び出し祭の成松を飛翔する火の鳥を目指します。



今年もたくさん町を歩きました。



うちわをありがとうございました。



ガレージでの制作の様子



照明デザイナーの長町さんが照明器具を持ってきてくれました。



照明によって光輝く火の鳥



三千枚のうちわを使って完成した火の鳥は、灯りに照らされて祭の中で神々しく輝いていました。尾っぽの間を走り回る子供、巨大な羽に見とれるおじいさんなど、今年もたくさんの人々が訪れ、ガレージは連日老若男女でにぎわいました。お祭りの最後には火の鳥をみんなで担いで町を回りました。



町の造り物審査会で「銅賞」をいただきました。ATACOM8年の歴史の中で初めての入賞。成松の人達に ATACOM やツクリモノが受け入れられた象徴となる受賞でした。



ツクリモノがガレージを飛び出し町を練り歩きました。



恒例となったWS、WRに加え、今年は町の造り物の傍に成松の歴史をまとめた「歴史ボード」を展示するなど新たな試みにもチャレンジしました。この歴史ボードは、秋に成松で行われた軽トラ市のウォークラリーでも使い、地域の方と成松について話すツールになりました。

広がり続ける輪

ATACOM と成松とのつながりの輪も広がり続けています。合宿中は伝統行事「練り込み」の参加に加え、成松商工会ロイヤルクラブとの交流 BBQ やツクリモノの制作に地元の中高生が手伝ってくれました。愛宕祭だけでなく、他の祭にも参加し、テーマである「リターンズ」が達成できたと思います。これからも、成松と関わり続け、「成松について考える団体」として活動していきます。



手伝ってくれた中高生たちと。



ロイヤルクラブとのBBQ大会。



関大連として参加した練り込み。



最終日、町の方との打ち上げ。



秋祭り：一緒にお神輿を担ぎ、町中練り歩く。



忘年会：地域の方と愛宕祭やいろんな成松の話もできました。



軽トラ市：活動の紹介や成松の模型の展示を成松にある空き家で行う。

大野で始まる。

関わり続ける定住のカタチによる
越前大野 拠点づくり project



協働の舞台は、いよいよ関西を離れ、美しい山々に囲まれた名水の地・福井県大野市へ。

2017年4月から大野市にて「関わり続ける定住のカタチ」の実践が始まりました。兵庫県丹波市での実践と経験を活かし、大野市での関わり続ける定住のカタチを地元の方々と交流を重ねながら、一緒に考え、実践し続けていきます。

1年目は、「とにかく大野へ行く!」「身体を使って大野を知る」「関わり続けるための滞在活動拠点を!」を目標に活動を行いました。

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月

05/14 ⇒ 17
拠点の借用に向けた調整
大野市の職員の方々に調整いただき、建物の家主の川瀬さんと賃借条件や降雪時の対策等、建物の維持管理方法など協議を重ねました。

07/27 ⇒ 29
大掃除だ。横町スタジオ始動

09/14 ⇒ 17
研究室のゼミ合宿 & 横町スタジオリノベーション!

初めての冬は、豪雪。



03/11 ⇒ 13
1年目の活動報告会 @ツイタチビル
3/11には、協働で研究する先生方と一緒に、1年間の活動報告と次年度の活動に向けて、地元の方々と意見交換会を開催しました。

04/20 ⇒ 22
さあ大野へ行こう。拠点となる空き家探し。



これが大事。ツイタチビルにて地元の方々と交流会



大野市の職員の方々と一緒に、荷物を片付ける! 研究室の代名詞「マンパワー」で、なんとか泊まれるようになりました!



まずは大野のまち歩き



町内会の方も一緒に写真コンテスト開催!



大野式BBQ実践。at 雨山邸車庫



リノベーション作業も! 柱を赤く塗るんです。

12/05 ⇒ 06

大野の木材を探しに...そして色を塗る。



地元の製材所見学 即、木材発注!



空き家リノベーション
関西大学
横町スタジオを
リノベーション
-その1-

リノベーション①「まずは片付ける」



荷物をとにかく片付ける...



「片付ける」だけで空間が生き返る。

リノベーション②「色で空間を作る」



色塗りは、現場で考える。



色を塗るだけでこんなに空間が変わる

リノベーション③「木を使う」



木の「素材感」は人の居場所をつくる



Project OSC 2017 風の輪ひろば

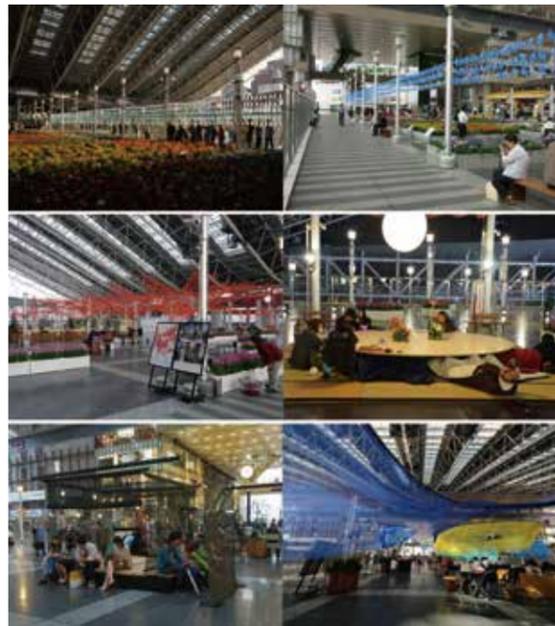
実施期間：2017/8/31~9/6

Project OSC

大阪ステーションシティはJR大阪駅を含む複合施設であり、道、広場、店舗などがそれぞれ3次元的に重なり合っ計画されています。ProjectOSCはOSCの魅力を発見・提案し、感動を与えていく「新しいまちの風景」を作り出していくために、時空の広場で広場空間活用の提案・実施活動を行っています。

今年度の提案

今年度の提案では、布を用いた空間操作をおこない、大阪駅の機能的な動きのある場に、有機的な風の動きをもった存在の場を作り出しました。コンセプトは夏の時空の広場に吹く、心地よい風を感じれる居場所づくりです。半透明の布を使って揺れ動く布の輪の空間を作ることで風を可視化し、夏の時空の広場の新たな魅力をつくりました。



時空の広場でおこなってきた実施提案

場所を活かした提案

時空の広場に流れる風を可視化する装置として提案した布案は、広場の制約上、今まで実現できなかった提案でした。活動の継続により新たな解法を発見し、広場のポテンシャルを引き出す試みを行っています



時空の広場の大きな空間に対応したφ2000~8000の布の輪の空間

半透明の布が広場利用者を惹きつける

広場に吹く風によってひらひら布が揺れ、時空の広場に心地よい布の空間を作りました

様々な人々を巻き込み広場を使う

関西大学の学生だけでなく、武庫川女子大学や公立鳥取環境大学の学生の協働し、分野横断的に関わり合うことで、提案の内容も充実しています。

実施期間中は『涼しさ』をテーマに広場空間に沿ったワークショップを提案しました。広場の心地よい布の空間と連動するワークショップとして、うちわを飾り付け自分のうちわとして持ち帰ることができるもので、鳥取県の特産品である因州和紙をつかったオリジナルのうちわ、モビールづくりを行った。制作品で涼しい風を感じたり、布に扇いで遊んだり、涼む人たちが溢れかえる時空の広場の使い方を提案しました。



子供から大人まで幅広い年代の方が訪れ、広場での交流が生まれました

実現までの道のり

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|----------|---------|--------------|------------|-------|-------------|-------|-------|--------|------------|--------------|-------|----------|-----------|-------|-----------|----------------|------|------|
| 2月7日 | 4月15日 | 5月10日 | 5月21日 | 6月7日 | 6月17日 | 6月19日 | 6月20日 | 6月21日 | 6月27日 | 7月19日 | 7月26日 | 8月8日 | 8月9日 | 8月10日 | 8月15日 | 8月24日 | 8月31日 | 9月1日 | 9月6日 |
| プロジェクトスタート | まちあるき | 班内提案コンペ | 第1回ワークショップ | モックアップ予算申請 | 学内作業日 | 消防検討 | 学内作業日 | 学内講評会 | 3大学講評会 | 学内作業 | 実施計画・予算提出 | 学内作業日 | 現地モックアップ | 学内作業日 | 学内作業日 | 安全計画資料の提出 | 『風の輪ひろば』施工 | 撤去 | 撤去 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| OSCを廻る | 模型を使い考える | | 学内を使ってモックアップ | | | 課題が見つかった検討会 | | | | 現地での初めての検討 | 検討を重ねスケールを確認 | | | 廊下を埋め尽くす布 | | | 実施当日、風の空間が生まれる | | |



当日は丹波や河内長野の木材で賑わい感ある広場空間を創り出している。

堺市市民交流広場活用プロジェクト

タンバが堺にやってくる

ver.1
2017.9.10
ver.2
2018.3.18

今年度は、堺市市民交流広場の活用を通じた地域間の交流を生み出した。建築環境デザイン研究室が活動フィールドとしている地域の方々とのつながりを活かし、“豊かな食と木のある暮らし”をテーマに丹波市、堺市、河内長野市をつなぐ機会として「タンバが堺にやってくる」を開催した。丹波からは野菜やアマゴ、木材を持ち寄り、河内長野市からは、木材とそれを使ったワークショップを行い、地域間の人的・物的交流の機会を作り出した。



当日はほぼ完売！

“豊かな食を通じた地域間交流”

盆地気候で寒暖の差が激しい丹波には、おいしい野菜や果物、お米がたくさんある。それらの食材とそれらを使ったスイーツ等を広場で販売し、小さなマルシェのように展開してみた。

中には珍しい野菜もあり、訪れた方からは大変好評で、持ってきた食材はほとんど完売してしまった。また、丹波地域にゆかりのある方も多く、大阪に出てきている「丹波人」との交流も図ることができた。一方では、丹波からの出店者は堺の地で丹波の食材がどのような反応を受けるのか新鮮だったようで、豊かな食を通じた、地域間交流を図ることができた。

“木のある暮らし”

緑が深く、林業盛んな丹波の木材を使い、広場空間のしつらえを行った。丹波の木材を使った2m材を天板とする「ながーいテーブル」を広場に人の流れができるように配置、小さな丸太の椅子も用意し、賑わいとくつろぎの場所づくりを行った。食事をする親子や、カードゲームをする子供達が広場にやってきた。集成材や合板ではなく、無垢の木に触れ、「広場に木があると面白いね！」「あたたかい雰囲気になるし、匂いもいいね！」と訪れた方々からは好評であった。



丹波の木材を販売。匂いも感じられて好評だった。



木に触れる。

慣れない作業に苦戦中…

“木に触れるワークショップ”

空間づくり以外にも木に触れるワークショップを企画した。組み立て式のBRチェアづくりや木いホルダーづくりを行い、日常生活に使えるアイテムを自分で作ってもらうことで、木材への愛着を持ってもらうことが狙いだ。当日は堺市役所の広報協力のあり、たくさんの親子に来ていただけた。親子が協力して椅子づくりを行う姿は、微笑ましく、あたたかい風景が広場に広がった。



作った椅子でその場でくつろぐ！



河内長野ブースも盛況！



大好評の魚釣り！

“河内長野市との連携”

河内長野市農林課、森林組合（木根館）にご協力いただき、広場に「おおさか河内材」のPRブースとバードコールづくりワークショップ、木材の魚釣りコーナーなどを出店していただいた。河内材のPRとともに、丹波の事業者の方との交流や木材の微妙な違いなど、様々な情報交流が広場を通して図られた。



月に一度のガシ横マーケット！



これまでの堺の取り組みをPR！

“ガシ横マーケットとの連携”

3月に行った際には、道路を挟んで向かいにある商店街で行われているガシ横マーケットとの連携もスタートさせた。今後は広場に限らず全体的な視点での企画や交流が図っていききたい。

2017年度の活動における協働者・団体

【咲っく南花台】

- 河内長野市
 - 谷ノ上浩久、二宮達治、山田浩太、内田厚、東映道、藤田晃正、大田昌典、山本佐知子、松見和弥、槌野貴公、
- 大阪府 / 金森佳津、廣瀬武夫、田辺博
- 株式会社タニタ / 金子泰明、寺畑佳勇
- UR 都市機構 / 横山毅、鈴木維子、後藤成伸
- 特定非営利活動法人 /SEIN/ 宝楽陸寛、甚田知世
- atelier NOAHNOOR/ 天川麻子
- 株式会社コノミヤ
- 医療法人永広会 島田病院
- 大阪府森林組合ウッドベースかわちながの
- 河内長野市社会福祉協議会 / 土橋崇之、佐藤友彦
- 株式会社 長尾工務店
- 株式会社アーバンリバーズ / 太田隆司
- うのの建築事務所 / 野々山稔
- 関西大学戦略的研究基盤団地再編プロジェクト
 - 江川直樹、菊田純一、安原秀、三谷幸司、荒木公樹
- だんだんテラス / 辻村修太郎
- 関西大学建築環境デザイン研究室
- 関西大学住環境デザイン研究室
- 関西大学社会学部教授 / 与謝野有紀
- 和歌山大学システム工学部環境システム学科准教授 / 佐久間康富
- 関西大学佐治スタジオ / 出町慎、出町綾、植地惇、関谷大志朗
- 錦秀会看護専門学校
- 大阪大谷大学
- 咲っく南花台事業者の会
- 南花台自治会のみなさま
- UR 南花台自治会のみなさま
- 南花台まちづくり会のみなさま
- 南花台自治協議会のみなさま
- 南花台中学校区青少年健全育成会のみなさま
- 南花台防犯ステーションのみなさま
- たくさんの南花台住民のみなさま

【堺市プロジェクト】

開催日：2017年9月10日

2018年3月18日

- 関西大学建築環境デザイン研究室
 - 倉本義己、森岡永遠、中井紘之
- 関西大学住環境デザイン研究室
 - 村上真央、中村穂希、長峯佳代
- 堺市都心まちづくり課
- 河内長野市農林課
- 河内長野市林業総合センター「木根館（きんこんかん）」
- おおさか河内材販売促進協議会
- 関西大学建築学科
 - 田中凌平
- 関西大学佐治スタジオ / 出町慎、出町綾、植地惇、関谷大志朗
- 佐治倶楽部＋ソシエテ・リベルテ（丹波市）
- 一般社団法人カンデ

【越前大野 拠点づくりプロジェクト】

- 大野市 結の故郷創生室 商工観光振興課
- 大野市商工会議所
- 株式会社電通
- 浦山工業株式会社
- 株式会社中保屋電気商会
- 有限会社サシオカトーヨー住器
- 株式会社中川設備
- うのの建築事務所 / 野々山稔
- 提案部会 安原秀、三谷幸司
- 関西大学環境都市工学部
 - 建築学科 教授 江川直樹
- 関西大学建築環境デザイン研究室
- 関西大学住環境デザイン研究室
- 関西大学佐治スタジオ / 出町慎、出町綾、植地惇、関谷大志朗
- 佐治倶楽部
- 川瀬幸男様
- 横町町内会の皆さま
- HASHU の皆さま
- たくさんの大野人の皆さま
- 大野市受託研究参加者 / 楠見晴重、江川直樹、岡絵理子、北詰恵一

【Project OSC「風の輪ひろば」】

- 関西大学建築環境デザイン研究室
 - 倉本義己、早川凌平、森岡永遠、熊野佐亮、中井紘之、東浦隆介、阪井勇樹、前田健吾、Jongmin Oh、黒河尚明、宮森祐允、横山哲也、谷直輝、中村舜介、浜田千種、三浦絢人
- 関西大学住環境デザイン研究室
 - 中村穂希、、村上真央、 白原凌示
- 関西大学建築学科
 - 野村卓史、好田一貴、富江満貴、國江咲帆、三上秀大、丹羽麻友美
- 武庫川女子大学
 - 中林里沙子、藤原明日香、中嶋優衣、荒木裕佳、鍋坂ひなこ、澤章乃、縄稚美風、山野愛、池田純奈、秋澤宏香
- 公立鳥取環境大学
 - 白木皓亮、高見真由、原口紗夕香、尾崎千尋、春日友輔、今井咲夏
- 大阪ターミナルビル株式会社
 - 企画部
 - 岡取締役企画部長、山本課長、岡前主任
 - 営業部
 - 伊藤係長、古田 直也
 - 施設部
 - 薄田課長
 - 安全企画部
 - 中村課長、馬木課長
- 大阪北消防署
 - 大橋消防司令補
- 布提供
 - 株式会社キヌガワ京都の皆様
- アルミフレーム提供
 - 岡田装飾金物株式会社の皆様

- 提案部会
 - 江川直樹（建築学科 教授）
- 安原秀（OLA の会）
- 三谷幸司（三谷都市建築設計室）

【佐治スタジオ】

-ATACOM8-

- 関西大学・丹波市連携事業推進協議会・関西大学環境都市工学部
 - 建築学科 教授 江川直樹
- 関西大学佐治スタジオ
 - 出町慎、出町綾、植地惇、関谷大志朗
- 関西大学建築環境デザイン研究室
 - 阪井勇樹、宮森祐允、熊野佐亮、中井紘之
- 関西大学環境都市工学部建築学科
 - 田中凌平、富江満貴、藤居省伍、中井紘之
- 関西大学住環境デザイン研究室
 - 松田沙稀、京極景子、矢吹 優明、中村穂希、白原凌示
- 摂南大学
 - 柳瀬明日香、木根康平、小林巧
- ツクリモノ制作お手伝い
 - 山下優樹
- 愛宕祭実行委員会
 - 竹谷龍馬、倉本義己、黒河尚明、森岡永遠、新島祐介、
- 成松造り物保存会
 - 鴨川絢美、國江咲帆（関西大学）
- 中央地区自治振興会

- 成松ロイヤルクラブ

- 丹波市立休養施設 やすら樹

- 地域の造り物の先人のみなさま

- 氷上西高校まちづくり部

- 氷上中学校

- うちわ提供協力

- 成松のみなさま、男山のみなさま、南花台のみなさま

-ブルーサミット-

- 関西大学建築環境デザイン研究室
 - 竹谷龍馬 阪井勇樹

- 佐治倶楽部のみなさま
- さじっこ倶楽部のみなさま

- 関西大学社会学部教授 / 草郷孝好
- 草郷孝好研究室 3 回生のみなさま

- 関西大学社会安全学部准教授 / 菅磨志保

- 社会安全学部 / 大久保泰斗

- 氷上西高校教員 / 松山 典章

- 氷上西高校まちづくり部

- 丹波市にお住いのみなさま

- Msaji のみなさま

- 衣川會館を考える会のみなさま

- 丹波八宿青垣の秋実行委員会のみなさま

- 丹波布技術保存会のみなさま

- あおがき灯りの夕べ実行委員会のみなさま

- 関西大学・丹波市連携事業推進協議会

- 佐治自治協議会のみなさま

- 丹波市 建設部住まいづくり課のみなさま

-空き家キャンプ-

- 佐治倶楽部のみなさま

- 中町自治会のみなさま

- 佐治自治協議会のみなさま

- 関西大学建築環境デザイン研究室

- 竹谷龍馬 阪井勇樹

【男山団地】

-だんだんテラス-

- 関西大学団地再編プロジェクト
 - 辻村修太郎（地域コーディネーター / 京都府公共員）

- 八幡市

- 独立行政法人都市再生機構

- 関西大学佐治スタジオ
 - A17-404 松原一樹 横山哲也

- 男山中央センター商店会
 - A20-503 早川凌平 宮森祐允

- UR 男山団地自治会（A.B 八望）
 - A24-401 阪井勇樹 竹谷 龍馬

- タイムズ 24

- 八幡の歴史を探究する会

- 八幡地域猫を考える会

- NPO 法人八幡たけくらぶ

- 京都八幡高校

- 男山第 2 中学校

- 地域包括ケア複合施設 YMBT

- ワイズ CONSTRUCT OFFICE

- 学校支援地域本部

- 男山児童センター

- 出町慎、関谷大志朗、植地惇

- 辻村修太郎（地域コーディネーター / 京都府公共員）

- 永和建設

- トッテンハウス

- 八幡市支援学校

- 社会教育委員

- NPO 法人ホームズビー

- UR 都市機構 DIY 部

- 京都府建築士会

- 男山やってみよう会議メンバー

- だんだんテラス利用者のみなさま

- おひさまテラス

- 穂の時間

-だんだんラボ-

- 関西大学団地再編プロジェクト

- 提案部会のみなさん

- 関西大学建築環境デザイン研究室 OB のみなさん

- 独立行政法人都市再生機構

- 辻村修太郎（地域コーディネーター）

- 関西大学建築環境デザイン研究室

- 早川凌平

- 京都府建築士会青年部会のみなさん

- 男山中央センター商店会

- 木村工務店

- 綿貫さん

- 手作り市メンバー

- 中西さん、浮田さん、池田さん、吉田さん

- 関西大学建築環境デザイン研究室のみなさん

- 京都府立八幡支援学校

- おもちゃ病院八幡

【そして、ここに書ききれない見守ってくださったたくさんの方々】